

美術探究 学習指導案

熊本県立第二高等学校 美術科 1年
令和4年度11月30日(水) 第5時限 場所 1年美術科教室
指導者 教諭 染森 千佳
助言者 指導主事(熊本県教育センター) 前田 未宙

1 題材名 「科学哲学～美しさとは」

2 題材の目標

「美」は一つの価値で決まっているのではなく、多様な文化や歴史観の上に成り立って成立していることを学ぶ。本授業では自分が「美しい顔」であると思う画像を集め、分類することで自分自身の美意識について分析する。さらに、グループワークを通して、美しい顔の法則を考察する態度を養う。お互いの意見を尊重し、発見した課題から、「美しさ」の本質に迫る「問い」を見つけ、自分自身の考えで「美術史の座標」に定義することが本題材の目標である。

3 題材設定の理由

(1) 生徒観

男子7人、女子34人、計41人のクラスで、男女分け隔てなく活動できるクラスである。グループ活動では活発に話合うことができ、討論の過程で自分たちなりの解決に導こうとすることができる。美術史の知識は中学の授業等で学んだ一般的な鑑賞の知識が主なものに、「美術探究」の授業で学んだ美術史の知識を身に付けている。好きな芸術家などはそれぞれいるが、それを知識として深めるまでは到達しておらず、制作や鑑賞、探究の授業を通して総合的な美術史的な知識を深めている。

(2) 教材観

近年「ルッキズム」という言葉を耳にするようになった。外見でその人の価値を評価する言葉で、多感な高校生にとっても課題の多い言葉であると思われる。インターネットによるイメージの共有が容易になった現在、良くも悪くも容姿の美しさ、洗練が広く求められるようになったと考えられる。また、美術科の生徒は、今後専門領域の絵画やデザインなどで「美」をどう価値づけるかという課題に直面するため、「科学哲学」との横断型授業を通して「美しさ」とはなにか、多様な価値観に気づき、それを美術史・哲学的な座標に位置づける活動が、生徒たちの生き方やキャリアに重要となる。

(3) 指導観

美術科では1年次にSSH学校設定科目「美術探究」を2単位実施している。美術探究では科学的な視点から美術を探究し、探究型授業や教科横断型の取組を行っている。1学期は東洋の美術を古代から明治時代まで、2学期は親しみのある印象派、新古典・ロマン主義、バロック・ロココと時代をさかのぼりながら、画像分析の方法と美術史の基本的な知識をまなんできた。この授業を通して、美術史に対し受動的に学ぶのではなく、自分なりの視点を持って主体的に学ぶ姿勢を身に付けてもらいたい。さらに、ASで主に取り組んでいる「科学哲学」の指導方法を活用し、グループ

ワークを通して論理的思考することと、背景とする学問と自分自身の考えを関連付ける機会としたい。

4 題材の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知①グループ分けした画像を美術史やこれまでに学んだ知識に当てはめ、ラベリングすることができる。</p> <p>知②よく観察し、画像の特徴を見極めることができる。</p> <p>知③必要とする画像を検索できる</p>	<p>思①雑多な画像を見て、その特徴を元に分類し、何がどう美しいか根拠を示して分析できる。</p> <p>思②自分が「美しい」と感じる基準を判断し、言語化する。</p> <p>思③自分自身の考えを表現し、議論できる</p>	<p>態①グループ協議で自分の考えをさらに深めることができる。</p> <p>態②多様な画像を用意し、より学習を深める準備ができる。</p>

5 指導と評価の計画

時	主な学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	美しいと思う顔を画像検索する	知① 「美しい」と思う画像を集める活動の趣旨を理解している		態① できるだけ多数の画像を多様な視点で検索し、準備思、主体的に学習に取り組もうとしている
2 本 時	画像の特徴をともに分類し、美しさの規準を考える	知② ジャムボード上に貼り付けた画像を特徴に基づいて分類し、美しさの法則を自分なりに理解している	<p>思①画像を分類し、なぜそう思うか画像分析を元に説明できる</p> <p>思②自分が美しいと思う理由を造形要素を根拠として説明できる</p>	態② グループワークでは相手の話を傾聴し、自分の意見を発表しようとしている
3	美について感じた課題を話し合い、クラスで共有する	知③ グループ分けした画像と美術史や哲学的な知識を結びつけ、「美」を造形的な知識として理解している	思③ 話し合いを通して「美」に対する課題を発見し、問題だと感じる部分を見極めることができる	態③ 話し合いを通して「美」に関わる課題を自分の経験や生活を通して考えようとしている

6 本時の狙い

画像分析や話し合いを通して自分なりの「美」の規準を考えることで、歴史的・哲学的な知識と造形的な知識を結びつける。

7 指導過程

段階	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 前回の内容を振り返り、本時の狙いを把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">美しさとはなんだろう</div> ※AIによる美人コンテストの紹介 ⇒データサイエンスとの関連（簡単な説明をする） ※画像の取り扱いについて、著作権上の問題を知る	5分	ジャムボードで例を示す ※授業内のみでの共有、外部に発信する際には画像を使用しない、または適切な手続きを取る
展開	2 画像を分類し「美しさ」とは何か話し合う← <u>評価：観察（態度②）</u> （1）グループをつくり、ジャムボードを共有する （2）各自選んでいた「美しいと思う顔」をグループにわけラベリングし、その過程で『美しいと感じる』法則を考える （3）美しさの法則を話し合う← <u>評価：グループのジャムボード（知②、思①）</u> 3 グループで考えたことを全体に発表し、クラスで共有する（ジャムボードを活用し画像を共有する） 感じたことを Classroom の質問に投稿する← <u>評価：代表者のプレゼン、クラスルームの投稿（思②）</u> 4 発表された内容を元に、美術史的な見解を示す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">美しさとは何かを考える中で、疑問に思ったこと、気がついたことをあげよう</div>	5分 10分 5分 15分 5分	2 （1）前時に画像を検索しておく （2）最初は直感で分類する （3）グループ分けした画像を分析し、特徴を分析する 4 ルネサンスの芸術家を例に挙げて時代によって美の価値観が変わる事を学ぶ 5 紙とマジックを配布しグループごとに決まったテーマを記入する
まとめ	5 話し合いの過程で疑問に思ったことをあげ、次の時間で話し合うテーマを決める できたら、紙に書いて黒板に貼る	5分	いろいろなテーマがあってよい

6時間目は、それぞれのグループが決めたテーマでディスカッションする。

※内容

- （1）黒板に選んだテーマを貼り、共有する（黒板で同じようなテーマに分類する）（休み時間）
- （2）グループディスカッション（10分）
- （3）クラスでの共有（10分）
- （4）グループを入れ替えてディスカッション（半分席替え）（10分）
- （5）クラスでの共有（10分）
- （6）感想 Classroom（10分）